UENO Toshihiko; uenot_gosudarstvo@yahoo.co.jp; http://www.geocities.jp/collegelife9354/index.html

3．プーチン大統領の登場

1. プーチンのプロフィール

1.1. プーチンの経歴

経歴情報のソース

①政府議長公式ホームページで公表されている経歴[1]
②官報[2]
③『プーチン自らを語る』[3]

ヴラジーミル・ヴラジーミロヴィチ・プーチン（Влади́мир Влади́мирович Пу́тин）の経歴[4]

1952 年 10 月 7 日	レニングラート市（現サンクト・ペテルブルク市）生まれ。父、ヴラジーミル・スピリドーノヴィチ・プーチンは、第 2 次世界大戦でレニングラート防衛に参加し、傷痍軍人となった。母、マリア・イヴァーノヴナ・プーチナは、トヴェーリ州に生まれ、その後、レニングラートに移住した。
1975 年	レニングラート国立大学法学部を卒業、国家保安機関に配属。
1985～90 年	東独ドレスデン勤務。
1990 年	レニングラート国立大学学長国際問題担当補佐官、その後、サプチャーク（Анато́лий Алекса́ндрович Собча́к）レニングラート市ソヴィエト議長顧問。
1991 年 6 月 12 日	サンクト・ペテルブルク市庁対外関係委員会議長。市経済への投資の誘致、合弁企業の設立、外国のパートナーとの協力の問題を担当。
1991 年 8 月 20 日	国家保安機関に退職願を提出。
1994～96 年	サンクト・ペテルブルク市政府第 1 副議長兼サンクト・ペテルブルク市政府対外関係委員会議長。サンクト・ペテルブルク市緊急問題委員会議長。保健機関、サンクト・ペテルブルク市議会対策、社会対策局を担当。
1996 年 6 月	サプチャーク・サンクト・ペテルブルク市長、選挙で敗北し（決選投票日 6 月 2 日）、サプチャーク市長の任期満了とともに、プーチンもサンクト・ペテルブルク市政府第一副議長を辞職。
8 月	ロシア連邦大統領府総務部次長に就任。
1997 年 3 月 26 日	エリツィン大統領により、ロシア連邦大統領府副長官兼監督総局長に任命される[5]。
1998 年 5 月 25 日	エリツィン大統領により、ロシア連邦大統領府第 1 副長官（地域対策担当）に任命される[6]。

---

[1] http://premier.gov.ru/premier/biography.html

[2] *Собра́ние законода́тельства Росси́йской Федера́ции* のこと。

[3] N. ゲヴォルクヤンほか著、高橋則明訳『プーチン自らを語る』扶桑社、2000 年。ロシア語版は、*От первого лица: Разговоры с Владимиром Путиным*,《ВАГРИУС》, M., 2000. ただし、邦訳は英語版からの翻訳である。著作は、プーチン自身および彼の知人に対するインタビューをまとめたもので、2000 年 3 月の大統領選挙前に選挙宣伝用として販売されたものである。なお、邦訳の「訳者あとがき」にあるように「英語版は、新聞に掲載されたインタビューをつけ加え」ており、ロシア語版と邦訳とのあいだには内容に違いがある。また、邦訳には、致命的な誤訳や事実関係の取り違いが散見され、さらにプーチンの発言が別の人物の発言とつながってしまっているなどの、おそらくは編集上の過誤も見いだされる。訳者がロシア政治についてある程度の知識を持っていれば、その多くは未然に防ぐことができたものであると思われる。たとえば、邦訳 122 頁の「エリツィンと国家会議（下院）の対立」は、原著では「エリツィンと最高ソヴィエトの対立」である（c. 86）。1993 年当時の話であるから、むろん国家会議はまだ存在していない。

[4] 出典のないものは、政府議長ホームページおよび前掲『プーチン自らを語る』を典拠としている。なお、政府議長ホームページの経歴には、「経済学博士候補。ドイツ語および英語に堪能（大統領時代には、大統領ホームページで、「英語を解する」とされていた）。妻、リュドミーラ・アレクサーンドロヴナ・プーチナ。マリア（1985 年生まれ）とカテリーナ（1986 年生まれ）の 2 女を持つ」とある。大統領時代のホームページでは、「11 歳のときからサンボおよび柔道を習い、サンクト・ペテルブルク市サンボ大会で数次にわたり優勝、1973 年にサンボのスポーツ・マスター、1975 年に柔道のスポーツ・マスターの称号を授与される」と記されていた。

[5] *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 13, 31 марта 1997 г., Ст. 1526.

[6] *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 22, 1 июня 1998 г., Ст. 2419.

1998 年 7 月 25 日	エリツィン大統領により、連邦保安庁長官に任命される[7]。
1999 年 3 月 29 日	エリツィン大統領により、ロシア連邦安全保障会議長官に任命される（連邦保安庁長官と兼務）[8]。
1999 年 8 月 9 日	エリツィン大統領により、ロシア連邦政府第 1 副議長に任命され[9]、その直後に政府議長臨時代行を委ねられる[10]。
1999 年 8 月 16 日	ロシア連邦連邦議会国家会議により、賛成 233 票、反対 84 票、棄権 17 票、欠員を含む投票不参加 116 名で、エリツィン大統領によるプーチンのロシア連邦政府議長への任命について、同意を与えられる[11]。それをうけて、同日、エリツィン大統領により、ロシア連邦政府議長に任命される[12]。
1999 年 12 月 31 日	エリツィン大統領の任期満了前の辞任に伴い、ロシア連邦大統領代行に就任[13]。
2000 年 3 月 26 日	ロシア連邦大統領選挙において、第 1 回目の投票で、得票率 52.94%を獲得して当選[14]。
2000 年 5 月 7 日	ロシア連邦大統領に就任[15]。
2004 年 3 月 14 日	ロシア連邦大統領選挙において、第 1 回目の投票で、得票率 71.31%を獲得して 2 期目の大統領に当選[16]。
2008 年 5 月 8 日	ロシア連邦連邦議会国家会議により、賛成 392 票、反対 56 票、棄権 0、欠員を含む投票不参加 2 名で、メドヴェージェフ大統領によるプーチンのロシア連邦政府議長への任命について、同意を与えられる[17]。
2008 年 5 月 8 日	メドヴェージェフ大統領により、ロシア連邦政府議長に任命される[18]。

1.2. プーチンの出自

祖父は、料理人で、第 1 次世界大戦後、レーニンのゴールキの別荘で働き、レーニンの死後はスターリンの別荘で長いあいだ働いていた[19]。

↓

祖父は信用のおける忠実な共産党員

父親は、潜水艦乗組員として兵役についていたが、復員後、独ソ戦が開始されるやすぐに志願兵として前線に出征、ドイツ軍の背後で破壊工作を行う内務人民委員部の部隊に所属して破壊工作を行い、またその後は、「ネフスキー・ピャタチョーク」[20]でドイツ軍との激戦に耐え抜いた[21]。第 2 次大戦後、父親は、イェゴーロフ鉄道車両工場で職長として働き、作業所の党書記であった[22]。

↓

父親は勇敢な愛国者で共産党員

---

[7] *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 30, 27 июля 1998 г., Ст. 3769.
[8] *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 14, 5 апреля 1999 г., Ст. 1698.
[9] *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 32, 9 августа 1999г ., Ст. 4047. なお、この大統領令は、その第 1 項で 1999 年 5 月 25 日付「連邦執行権力機関の構成について」のロシア連邦大統領令を修正して 3 人目の政府第 1 副議長ポストを新たに設けることを規定し、第 2 項でプーチンをその 3 人目の政府第 1 副議長に任命している。
[10] *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 32, 9 августа 1999г ., Ст. 4048. なお、この大統領令は、その第 1 項で政府総辞職を宣言し、第 2 項でプーチンに政府議長臨時代行を委ねている。
[11] *Государственная дума. Стенограмма заседаний. Бюллетень*. N 278 (420), 16 августа 1999 г., с. 25.
[12] *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 34, 23 августа 1999 г., Ст. 4222.
[13] *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 1, 3 января 2000 г. (Часть II), Ст. 109; Ст. 110.
[14] *Вестник Центральной избирательной комиссии Российской Федерации*, 2000 No. 13, с. 66.
[15] *Российская газета*, 11 мая 2000 г., с. 1.
[16] *Вестник Центральной избирательной комиссии Российской Федерации*, 2004 No. 7, с.113.
[17] *Государственная дума. Стенограмма заседаний 08 мая 2008 г.,* N 24 (997). <http://transcript.duma.gov.ru/node/544/>
[18] *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 19, 12 мая 2008 г., Ст. 2158.
[19] *От первого лица: Разговоры с Владимиром Путиным*, указ., с. 7.
[20]「ネフスキー・ピャタチョーク нéвский пятачóк」とは、ドイツ軍に包囲されたレニングラートにとって、唯一残された補給路の要所で、文字どおり「ピャタチョーク」（5 カペイカ硬貨）のように小さな土地をめぐってドイツ軍との激闘が繰り広げられた独ソ戦史上に名高い場所のことである。
[21] *От первого лица: Разговоры с Владимиром Путиным*, указ., с. 8-11.
[22] Там же, с. 13, 15.

↓

プーチンが国家保安委員会入りできた理由

1.3. 国家保安委員会入りの経緯

化学専門教育を重視する学校に在学しているときに、映画『剣と盾』や本の影響を受けて諜報機関で働きたいと思うようになった[23]。
9 年生のときに、どのようにすれば諜報員になれるのかを知るために国家保安委員会の支部を訪ねたところ、志願者は採用されず、軍もしくは高等教育機関から人を採用すると聞かされる。どのような高等教育機関がよいかと重ねて尋ねると、法学部がよいという情報を聞き出した[24]。

↓

レニングラード大学法学部に進学

||

本当か？

大学 4 年生のときに、大学担当の国家保安委員会の職員に国家保安委員会への入省を勧誘され、国家保安委員会に採用される[25]。

コムソモール（共産主義青年同盟）の活動家でもなかった[26]彼を国家保安委員会が採用したのはなぜか？

↓

祖父および父親が愛国者で忠実な共産党員であった、という出自（家柄）

1.4. 大統領府入りの経緯

1.4.1. サンクト・ペテルブルク市政府からの離任

サプチャーク・サンクト・ペテルブルク市長のもとで市政府第 1 副議長として勤務していたプーチンは、1996 年 6 月 2 日の市長選挙決選投票でサプチャークが破れたあと、ヤコヴレフ（Влади́мир Анато́льевич Я́ковлев）新市長にそれまでの地位にとどまるよう求められたがそれを断り、市政府の仕事から離れた[27]。

1.4.2. プーチンの大統領府入り

ボロジーン（Па́вел Па́влович Бороди́н）大統領総務部長の「イニシアチヴ」による[28]。

↓

ボロジーンが数回会っただけのプーチンをなぜ思い出したのか？

ボロジーンは、プーチンのことをイェゴーロフ（Никола́й Дми́триевич Его́ров）大統領府長官に話し、プーチンをモスクワに呼び、自分の副官にすることを提案し、そのことが書かれている大統領令の草案をプーチンに見せた。しかし、その数日後に大統領府長官に就任したサンクト・ペテルブルク出身のチュバイス（Анато́лий Бори́сович Чуба́йс）は「プーチンの就任が提案されていたポストを廃してしまった」[29]。

しばらくして、やはりサンクト・ペテルブルク出身で政府第一副議長になったばかりのボリシャコフ（Алексе́й Алексе́евич Большако́в）[30]が、ボロジーンに会ったときにプーチンの大統領府入りの件を催促。

---

[23] Там же, с. 24.
[24] Там же, с. 25.
[25] Там же, с. 37-40.
[26] Там же, с. 27. 邦訳では「コムソモールにも入らなかった」（43 頁）となっているが、誤訳と思われる。
[27] Там же, с. 107.
[28] この「イニシアチヴ」という言葉は意味深長である。この部分の邦訳は「大統領府首席補佐官のボロジーンが私を大統領府に引っ張ってくれた」（161 頁）とあるが、ロシア語からの直訳は「私の大統領府入りのイニシアチヴは大統領総務部長パーヴェル・ボロジーン自身によるものである」（с. 119）である。邦訳では、ボロジーンの地位が誤訳されているうえ、原著と若干のニュアンスの違いがある。
[29] 邦訳では「チュバイスは私の任官を取り消した」（161 頁）とされているが、この訳は原著と若干のニュアンスの違いがある。
[30] ボリシャコフは、かつてレニングラード市ソヴィエト執行委員会第一副議長を務めており、その後サプチャークに解任され

他方、やはりサンクト・ペテルブルク出身で、当時、大統領府監督総局長であったクドリン（Алексе́й Леони́дович Ку́дрин）もチュバイスに話をし、チュバイスはプーチンに広報局長のポストを提案。この提案をモスクワで受けたあとサンクト・ペテルブルクに帰ろうとしたプーチンは、翌日ボロジーンに会うからとボリシャコフに引き留められ、結局、プーチンはボロジーンから総務部次長のポストを提案された。

チュバイスとクドリンは密接な関係があることは、その後、チュバイスが政府第一副議長兼財務相に就任した 1997 年 3 月 17 日の 9 日後の 26 日に、クドリンも大統領府から財務第一次官に就任していることからも明らか[31]。このクドリンはプーチン大統領のもとで、2000 年 5 月 18 日に政府副議長兼財務相に就任している。したがって、プーチンとチュバイスの関係はプーチンとボロジーンの関係よりも密接である。しかし、大統領選挙前に宣伝文書として流布すべき『プーチン自らを語る』においては、一般国民に不人気なチュバイスとの関係をあえてあまり良好ではないとしておきたかったのではあるまいか[32]。

1.5. 大統領府でのプーチンの担当

大統領府総務部で法務と在外資産を担当[33]。

その後の監督総局長としての仕事はおもしろくなかった[34]ということだが、このポストは各連邦構成主体に置かれた大統領全権代表を統括して、連邦構成主体を監督する重要な立場にある。

その後、彼は大統領府第一副長官に就任するが、そのときの担当は、地域対策、「知事たちとのコンタクト」をとる仕事で、この仕事は「非常におもしろかった」という。そして「垂直的な管理が乱れており、それを再建することが必要だと皆が言っていたという[35]。

プーチンの大統領就任後の国内政策は、この大統領府監督総局長と地域政策担当の第一副長官の時期の経験に基づいて策定されたものと言える。その意味で、この時期の大統領府における経験はその後のプーチンにとって重要な意味を持っている。その後のプーチンの国内政策、とりわけ中央集権制の強化は、大統領就任後に突然に思い立ったものではないと考えられる。

2. プーチンの統治スタイル

2.1. シンボル操作

多くの国民がプーチンを支持したのは、プーチンが 1999 年秋以来、断固としてチェチニア戦争を推進してきたからであり、また若く活力に充ちたプーチンなら何かやってくれるかもしれないという漠然とした期待感からであって、その政策を支持したからではなかった。そもそもプーチンは、選挙前にその方針や政策を明確に提示していなかったのである。プーチンは、「強い指導者」であることを示すある種のイメージ操作ないしシンボル操作によって国民の支持を獲得したのである。

プーチンは、このイメージ操作ないしシンボル操作を、大統領就任後も巧みに利用している。プーチン大統領は 2000 年の年末になって、エリツィン大統領の大統領令によってすでに復活させられていた一連の

ていた（c. 121）。このボリシャコフが政府第一副議長に任命されたのは 1996 年 8 月 14 日のことであるから（См.: *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 34, 19 августа 1996 г., Ст. 4083）、プーチンの大統領府入りが決まったのは少なくとも 8 月 14 日以降のことであることがわかる。

[31] *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 12, 24 марта 1997 г., Ст. 1426; No. 13, 31 марта 1997 г., Ст. 1564.

[32] かねてよりクレムリン宮殿修復を行ったスイスのマベテックス社に関連する汚職疑惑でスイスの検察庁から出頭を求められていたボロジーン・ロシア・ベラルーシ国家同盟国務長官は、2001 年 1 月 18 日、ブッシュ大統領就任式へ招待されてニューヨークのケネディ空港に降り立ったところを米国連邦捜査局（FBI）によって身柄を拘束されたが、プーチン大統領はこれに抗議することなく事態を静観している（*Коммерсантъ власть*, No. 3, 23 января 2001 г., с. 5-8）。プーチンが大統領府入りに際してボロジーンに本当に世話になり、恩義を感じているとすれば、これは不自然である。

[33] *От первого лица: Разговоры с Владимиром Путиным*, указ., с. 122.

[34] Там же, с. 123.

[35] Там же, с. 123.

国家的シンボル、すなわちロシア連邦国旗である三色旗、ビザンチウム以来の伝統的シンボルである双頭の鷲を、改めて憲法的法律で正式に定めることとし、「ロシア連邦国旗についての憲法的連邦法」[36]および「ロシア連邦国章についての憲法的連邦法」[37]を国家会議に提出し、上下両院の支持のもとにこれを制定した。さらに、エリツィン前大統領や改革派の一部が反対する中、ソ連時代の国歌であった、いわゆるアレクサンドロフ作曲の曲を復活させて正式に国歌と定める「ロシア連邦国歌についての憲法的連邦法」[38]を同様に国家会議に提出し、やはり上下両院の支持を得てこれを制定した。この国歌には、2000 年 12 月 30 日付「ロシア連邦国歌の歌詞についての大統領令」により、みたびセルゲーイ・ミハルコフの作詞による、きわめて愛国的な歌詞がつけられた[39]。

---

[36] *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 52, 25 декабря 2000 г. (Часть I), Ст. 5020.
[37] Там же, Ст. 5021.
[38] Там же, Ст. 5022.
[39] *Российская газета*, 4 января 2001г., с. 1. このいわゆるアレクサンドロフの国歌は、1943 年に、それまでの「インターナショナル」に代わって新たに採用されたものであり、反ナチズム戦争のさなかで、国民の戦意高揚のため国歌の全国コンクールが行われ、作詞は 1 等、作曲は 2 等第 1 席のこの歌が選ばれたのであった。しかし、1956 年のスターリン批判以後は、歌詞の一部に不適当な箇所があるとされて歌詞は廃され、曲だけ演奏されるという不自然な状態が 20 年余り続いた。そして、ブレジネフ期の 1977 年、作詞者の一人ミハルコフにより新歌詞に改められて、公式に国歌として採用された（東郷正延・飯田規和・勝田昌二・竹沢浩三郎・戸辺又方・中本信幸・匹田軍次編『ロシア・ソビエトハンドブック』三省堂、1978 年、7 頁）。しかし、ソ連邦崩壊後、エリツィン大統領は、帝政期に親しまれていたグリンカ作曲の曲を歌詞なしで国歌として採用したが、この曲は国民にはあまり人気がなかった。かくして、プーチン大統領は、ナチスとの戦いに勝利した歴史的記憶とともにあって、国民に人気の高いソ連時代の国歌を再び国歌として採用し、歌詞は新たに作詞し直したものの、またもやミハルコフによる作詞となったのである。歌詞は以下の通り。訳は上野。

Госуда́рственный гимн Росси́йской Федера́ции	ロシア連邦国家
Му́зыка: А. Алекса́ндров	作曲：A. アレクサンドロフ
Слова́: С. Миха́лков	作詞：S.ミハルコフ
Росси́я — свяще́нная на́ша держа́ва,	ロシア、聖なるわが大国、
Росси́я — люби́мая на́ша страна́.	ロシア、愛するわが国よ。
Мого́чая во́ля, вели́кая сла́ва —	強い意志、偉大なる栄光は、
Твоё достоя́нье на все времена́!	つねにそれにやどり。
Сла́вься, Оте́чество на́ше свобо́дное,	讃えよ、自由なる我らが祖国、
Бра́тских наро́дов сою́з векове́й,	幾世紀にもわたる兄弟的諸民族の同盟、
Пре́дками да́нная му́дрость наро́дная!	父祖により与えられし民の英知よ。
Сла́вься, страна́! Мы горди́мся тобо́й!	讃えよ祖国を。誇れ祖国を。
От ю́жных море́й до поля́рного кра́я	南の海から極北の地まで
Раски́нулись на́ши леса́ и поля́.	広がるわれらが森と草原。
Одна́ ты на све́те! Одна́ ты така́я —	世界でただ一つ。世界でただ一つ、
Храни́мая Бо́гом родна́я земля́!	神により守られし祖国の大地よ。
Сла́вься, Оте́чество на́ше свобо́дное,	讃えよ、自由なる我らが祖国、
Бра́тских наро́дов сою́з векове́й,	幾世紀にもわたる兄弟的諸民族の同盟、
Пре́дками да́нная му́дрость наро́дная!	父祖により与えられし民の英知よ。
Сла́вься, страна́! Мы горди́мся тобо́й!	讃えよ祖国を。誇れ祖国を。
Широ́кий просто́р для мечты́ и для жи́зни	夢と生活のための広大な空間、
Гряду́щие нам открыва́ют года́.	未来がわれわれに時代を切りひらく。
Нам си́лу даёт на́ша ве́рность Отчи́зне.	祖国へのわが忠誠がわれらに力を与える。
Так бы́ло, так есть и так бу́дет всегда́!	昔も、今も、そして未来も、つねに。
Сла́вься, Оте́чество на́ше свобо́дное,	讃えよ、自由なる我らが祖国、
Бра́тских наро́дов сою́з векове́й,	幾世紀にもわたる兄弟的諸民族の同盟、
Пре́дками да́нная му́дрость наро́дная!	父祖により与えられし民の英知よ。
Сла́вься, страна́! Мы горди́мся тобо́й!	讃えよ祖国を。誇れ祖国を。

そしてさらにプーチン大統領は、「ロシア連邦軍旗、海軍旗、ロシア連邦軍のその他の軍種の軍旗、その他の部隊旗についてのロシア連邦法」を国家会議に提案し、この法律もまた上下両院の支持を得て制定された[40]。この法律によれば、ロシア連邦軍旗は赤旗、海軍旗は伝統的な白地に青の斜め十字のアンドレーエフ旗と正式に定められた。

このように、プーチン大統領は、ロシアの伝統的なシンボルを次々に制定し、国民の愛国心を高揚させ、政権に対する支持を動員しようとしているのである。

2.2.「強い国家」

プーチン政権成立当初からのスローガンの一つは「強い国家」である。この「強い国家」は、しばしば国内的な文脈において、連邦国家としてのロシアの一体性の維持、国内秩序の確立、治安の安定、犯罪の撲滅といったスローガンや、また経済における国家の役割の重視、すなわち国家規制型市場経済への志向と関連づけて語られる。この「強い国家」のスローガンは、国家保安委員会（KGB）の対外諜報員の出身であり、その後、保安庁長官などを歴任したというプーチン自身の「こわもて」のイメージに合致しているが、これはまた国民がそのような指導者を待ち望んでいたことに対する政権の側の対応策でもある。

しかし、見落としてならないのは、プーチンが、すでに見たように、国家保安委員会（КГБ）の対外諜報員という経歴と、1990 年以降においてサンクト・ペテルブルクの改革派市長サプチャークのもとで対外経済関係分野の仕事をしていたという経歴の、2 つの異なる経歴を持っており、彼が、たんなる КГБ 上がりや治安官僚出身者ではないということである。

2.3. プーチン政権の歴史的課題

エリツィン政権の課題は、旧体制を破壊し、ポスト共産主義ロシアの政治・経済体制すなわち立憲主義と市場経済の基本的枠組み、言い換えれば近代的憲法と市場経済システムなどをつくることであった。他方、プーチン政権の課題は、エリツィン政権の方針を受け継ぎ、残された課題を解決し、ポスト共産主義ロシアの政治・経済体制を安定させることであると言える。この安定にとって、必要なのがプーチン大統領が言うところの「強い国家」であるというわけである。

この「強い国家」の構築は、国内的文脈においては強力なリーダーシップと中央集権的システムを前提として初めて可能となる。かくして、ロシアの一体性の維持、連邦制秩序の再編、治安の安定がプーチン政権の目標となる。

ところで、エリツィンは、国家会議が共産党を中心とする野党優位にあったため、国家会議との関係において安定した政局運営を行えず、その政権基盤を金融寡頭制システム（オリガーキー）と連邦会議に糾合された地方エリートに依存していた。しかし、プーチンは、与党優位の国家会議を持つことになったため、中央の政局の安定化に成功し、とくに 1998 年 8 月の金融危機以降、政権への影響力を強めたオリガーキーからやや距離を置きながら、他方で、地方エリート権力の弱化に着手することになったのである。

[40] *Российская газета*, 4 января 2001 г., с. 3.